日 時 平成22年3月28日(月)午後2時00分

場 所 府中駅北第2庁舎3階会議室

出席者 田中会長、猿渡副会長、小澤委員、坂詰委員、副島委員、中村委員、 馬場委員 福嶋委員 以上8名

事務局 英文化振興課長、江口副主幹、庄司郷土資料担当主査、中山事務職員 助言 建築事務所

傍聴者 なし

## 1 報告事項

(1) 市内文化財の東北関東大震災による影響について

事務局 3月11日午後発生した東北関東大震災による市内文化財の影響について、全ては確認がとれていませんが主だったものについて説明します。大國魂神社の鼓楼には目立った損傷はありませんでしたが、北側の連子窓に多少ズレが生じました。他に指定文化財ではありませんが高安寺本堂の高い所にあった仏像が転落して破損したようです。善明寺では金仏殿の瓦が多少落下したようです。染屋不動尊の阿弥陀如来立像は中を確認したが損傷はなかったということです。郷土の森博物館では2階の常設展示室の一部で天井の部材が落下しましたので地震後閉館いたしました。また旧府中町役場の漆喰壁の亀裂が広がったという報告がありました。

なお、府中市では11日の地震直後には災害対策本部が設置され府中駅や分倍河原駅他に取り残された帰宅難民の保護にあたりました。また被害の大きい宮城県多賀城市には3月18日に府中市は緊急援助隊の第一陣を派遣しました。多賀城市は低地の津波の被害は大きかったのですが、文化財に関して指定史跡は主に台地上にあったため被害はほとんどなかったそうです。他にも行政機能そのものが失われた市町村もあるそうで全国市長会でとりまとめて援助に向かう予定です。

**委員** 郷土の森博物館の地震の被害状況について他にもありましたので報告します。府中町役場の漆喰壁の亀裂ですが、以前からのヒビとの区別はつけがたいです。第一小学校校舎の壁の被害も大きかったですが、幸いけが人はありませんでした。

**事務局** 元々府中町役場は傷みが目立ちはじめたので平成24年度に修理予定ではありました。

3月22日からは文化財係がふるさと歴史館で業務を開始いたしました。3月24日には教育委員会が開催され、ふるさと府中歴史館施行規則が制定され

ました。

(2) 平成 22 年度文化財保存活用事業報告及び平成 23 年度文化財保存活用事業計画(案)について

事務局 平成 22 年度の文化財保存及び活用事業結果と平成 23 年度の文化財保存、活用計画について資料に沿って報告させていただきます(資料1)。

平成22年度の文化財保存・活用事業結果は次のとおりです。

- 1 文化財保護審議会は本年度6回開催いたしました。
- 2 ふるさと府中歴史館はこの4月に開館いたしますが、3月30日に式典を中止して内覧会を予定しています。
- 3 国史跡武蔵国府跡については2月に国指定が決定し、3月には公有地化の 手続きを進めているところです。
- 4 現在国指定武蔵府中熊野神社古墳展示館の建設工事を進めています。展示 については古墳保存会の方々と最終的に詰めているところです。
- 5 国天然記念物馬場大門のケヤキ並木については、府中市が管理団体として 保護対策を進めています。
- 6 武蔵府中ふるさとまつりを実施いたしました。
- 7 白糸台掩体壕は平成23年度中に保存整備工事が決まります。
- 8 指定文化財の保存修理ですが、大國魂神社の鼓楼調査、郷土の森博物館の 三岡家の長屋門の屋根修理などの保存整備を進めてきました。
- 9 発掘調査体制の見直しを行い、遺跡調査会が新体制でスタートしました。
- 10 指定文化財の維持管理については、高倉塚古墳、常久一里塚、都史跡三千年塚などの継続的な維持管理を行ってきました。
- 12 郷土の森博物館の管理、連携について。

平成23年度の文化財保存・活用計画は次のとおりです。

- 2 ふるさと歴史館が開館しますが、新体制となりふるさと文化財課としてスタートするが決まりました
- 3 国史跡武蔵国府跡(追加指定箇所)は平成23年度からは市有地としての登記をし、現地に案内看板を設置し、解説パンフレット等の作成を進めます。
- 上半期は庁内の保護管理について協議を行い、下半期は市民主体と協議を行い たいと考えています。
- 4 熊野神社古墳の石室の実物大模型を作成します。展示館については地元の 古墳保存会の方々に運営しくように協議いたします。
- 5 国天然記念物馬場大門のケヤキ並木はケヤキの補植にあたり所有者と協議いたします。

- 6 本年度武蔵府中ふるさとまつりは経済観光課と連携しながら実施する予定です。第1回府中市で開催した国府サミットは、第2回目として山口県防府市での開催が決定しています。
- 7 白糸台掩体壕は平成 23 年度に保存整備・実施設計の見直し、下半期には施工を行い、平成 24 年度中には完成させ供用としたい。
- 12 郷土の森博物館展示リニューアルについて、平成 23 年度に実施設計を行い 平成 24 年度には工事に着工したい。
- **委 員** 5のケヤキ並木の補植の件ですが、現在フォーリス前のケヤキの樹形について、芯を止めて低い位置から枝分かれさせていますが、これは本来のケヤキの姿ではないので補植の際は自然樹形のものを植えるように検討していただけませんか。
- 事務局 現状では若いケヤキしか植えられません。

またケヤキ並木の場合は地元のリーダーとなるような方が決まっていません。現在府中市が音頭をとって毎月1回20日に清掃を実施していますが周辺の市民も協力していただいているという状況です。

- **委** 員 ケヤキ並木の下にゴミが捨てられることについて、ヘデラがないほう がゴミを捨てられないのではないでしょうか。灌水栓はヘデラの培養のため にあるようです。ケヤキはもっと地面の下のほうから水を吸収しています。
- **委 員** 白糸台掩体壕は今年度はどうなるのですか。
- **事務局** 掩体壕も今後は地域住民の皆さんと連携して保存活用をはかっていきます。
- **委** 員 保存会のような地域で核となるようなものがないので神社の氏子さん に頼んでみたらどうでしょうか。
  - (2) 都指定文化財大國魂神社本殿修理及び市指定有形文化財大國魂神社鼓楼 調査報告について
- **事務局** 大國魂神社本殿については雨が当たるために縁や床に腐食がみられます。そのため漆の塗り直しを行っています。まだ部材の調査に時間がかかっていますが、修理は急ピッチで進んでいます。

大國魂神社鼓楼については調査を依頼した伊藤平左衛門建築事務所の井上さんより説明をいただきます。

伊藤平左衛門建築事務所 建物の現状を申し上げますと、まず屋根は最近葺き替えているのでまだ耐用年数がありますが、袴部分に蟻による害が進んでいることが確認されました。このまま放置しておくとシロアリなどが地面から上がってくる可能性もあります。しかし大きな地震でもない限りはこのままでも損傷や倒壊するということは考えにくいと思われます。

前回の修理からはまだ 34 年しかたっていません。屋根は桟瓦葺きで 50~60 年は持つといわれています。今は屋根には大きな損傷はありません。また現状では基礎部分がコンクリートで覆われているため基礎の状況がわからないので、その調査は必要かと考えられます。

また柱脚部分が根継ぎされていることから、水分が地面から上がってきていて貫部分が袴に接していることから雨がかかった所が水分を吸って蟻害を受けているという状況です。このことから一部の袴を解体する必要はありそうです。縁の腰組も蟻害の影響を受けていることで「あばれ」が出ていて、端部が大きく波打っています。そのことでは応急修理は必要かと考えられます。防腐処理は5年おきぐらいには行ったほうがよいと思います。また軸部と長押が外れている所もみられますので応急的な修理は1、2年のうちに行ったほうがよいと思います。そのようなことを踏まえて「概算予算書」を提示させていただきました。

**委** 員 この報告書は分かりにくいのですが。

伊藤平左衛門事務所 昭和52年の修理は応急修理にはなっていないということです。大掛かりにしないと根本的修理にはなりません。

**委** 員 今の説明では大規模な修理が必要なのか応急的な処置だけでいいのかよくわからないのですが本当はどうなんですか。

事務局 市としては今回の調査について詰めてから改めてまとめる予定です。

**所有者(大國魂神社)** 鼓楼は現状では大掛かりな修理は難しいが必要最小限の修理は行っていきたいです。なおこの鼓楼に相応しい太鼓がみつかったので設置したいのと、市民の方にも上まで上って見ていただけるようにもしたいと考えています。

## 3 その他

**事務局** ふるさと府中歴史館の内覧会を3月30日に行いますので、今日ご出席の委員の皆様も是非ご参加ください。

大國魂神社さんでは今年は 1900 年祭ということでくらやみ祭を大々的に行 う予定であったということですが、震災があったため警察の警備の関係もあっ て祭は例年通り行わないということを聞いています。

## (1) 次回の開催日程について

事務局 本審議会は例年は年6回開催しています。来年度初回の開催日を今日 決めておきたいと思います

次回平成23年度の府中市文化財保護審議会の第1回です。

平成23年5月20日(金)午前9時30分からです。